

位置図

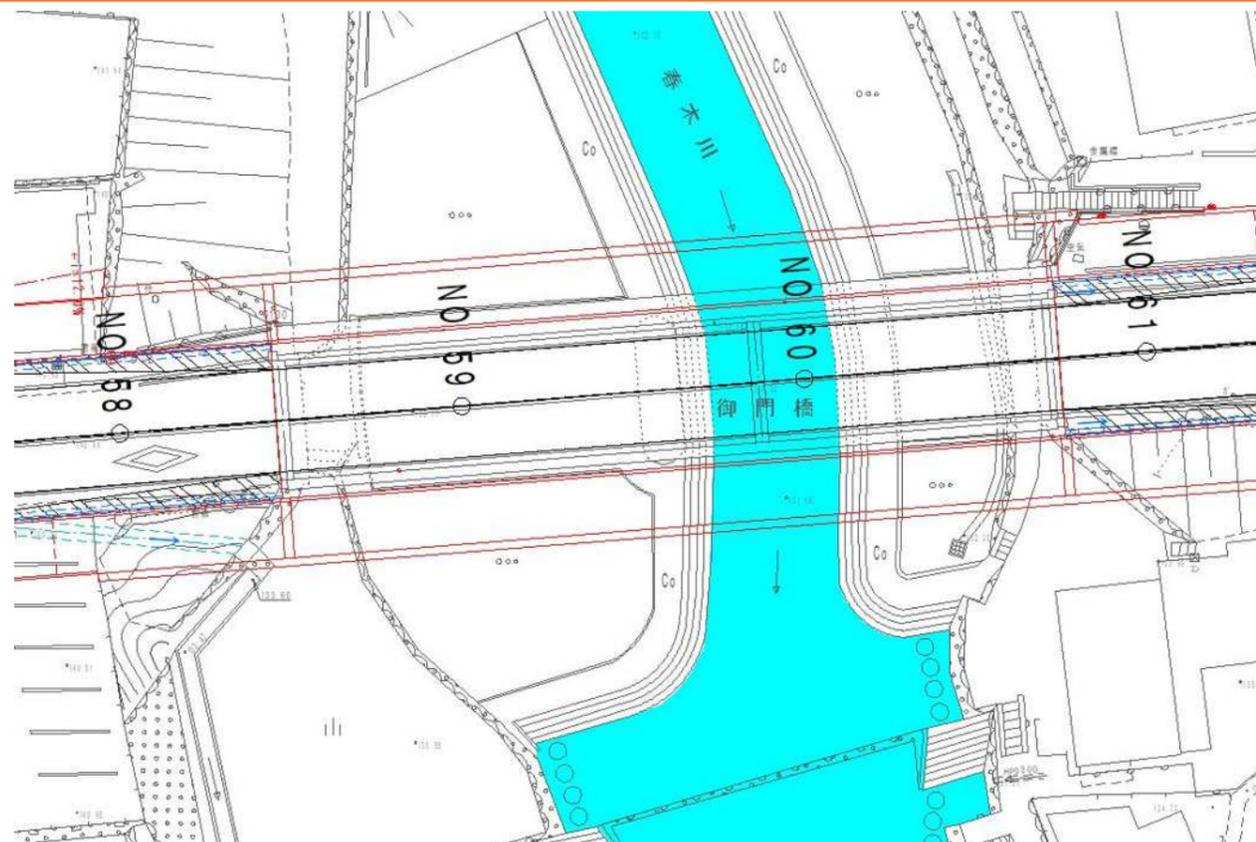


現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

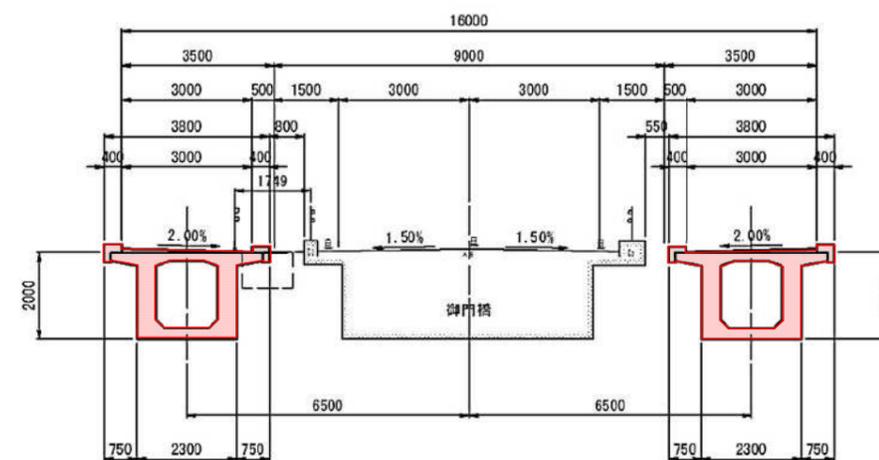
- 橋台位置のコントロール⇒既設本線橋台の堅壁より前に出さない(河川条件)
- 民家・工場・地下埋設物・供用中の道路に近接した仮設・掘削による変状の抑制
- 桁下作業に対する河川内への進入方法と路面からの施工での交通規制(片側交互)・支障案件
- 仮設護岸の設置が必要(上流側側道橋の既設橋台撤去～新設橋台の設置までの間)
- 工事用道路の「渡河部盛土+ヒューム管設置」は、11月～4月までしか流下能力を確保できない。
- その他支障物件:電柱、雨水排水

設計条件

- 道路区分:第4種第2級
- 設計速度:V=40km/h
- 計画幅員:W=6.0(16.0)m (自転車歩行者道の両側整備)
- 河川水位:HWL=133.675m(上流側桁端部)



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項

- 路面からの施工時は片側交互通行となるが、同路線は夕方の交通量が多く渋滞を回避するために作業時間帯は9:00~15:00となる。
 - 路面施工(出水期)の工程は、9:00~17:00の施工としていたが、9:00~15:00で作業日数を算出する。
- 渡河部の工事用道路の構造をヒューム管としているため、出水量の多い5月を外して工程を算出しているが、栈橋(H鋼)にすると5月まで工期が確保出来るのでは？
 - スパンが長く、H鋼の高さが高くなり不経済となるためヒューム管での計画とする。
- 出水期施工(路面から施工)時は、夜間も民地前に重機が置かれた状態となる。夜間の重機退避場所があれば夜間の支障は回避できる。
 - 鉄輪温泉交差点付近の土地を別府市が所有しており、工事の際に更地であれば使用できる。借地の可否を事務所で確認する。

○確認事項

- 路面施工時の渋滞緩和のため、同路線内で渋滞の要因となっている鉄輪交差点に右折レーンを設置するのが効果的と考えられる。
 - 事務所にて検討する。
- 工事用道路は住宅街を利用するため、地元住民の理解を得る必要がある。
 - 今後も事務所にて地元への説明・理解を求めていく。
- 矢板は道路側のみを残置として計画しているが、引抜き時の変状が懸念されるため民地側等も残置が望ましい。
 - 本業務では必要矢板長は未計算のため、引抜きの可否については河川管理者等も含めて今後の確認とする。